

① 他人の作品を読んで、気づいたことを言葉にできるような「てびき」

文集交流のためのてびき

名前 ()

作品を読んでいると、あなたの心がどんな動きをしよう、あとからあとから、作品の中のことばに出会うにつれて、いろんなことがふつと心にならぬかおぼしきよう。この「てびき」はそれに気づくためのヒントです。「てびき」を「作品」となるべくおいて、両方をいつたりきたりして読みながら、「こんなことも感じたな」「こんなことも気づいたな」「そういえばこんなことも言いたくなつたよ」というやうに作品を読んでいきますよ。ヒントの順番は関係ありません。ぜんぶのヒントをつかわないいいし、「ここ」を思いついたら、それも「てびき」もすてきな「てびき」ね。

1. この「てびき」は、だいたひき、びつたりのことばです。
2. びつくり、そうなののおどろいた。
3. 知らなかつた、もつと知りたいと思ひました。
4. このことば、読んでいて、わくわくしました。うれしくなつた。
5. これって、こんなかなあ、って想像しました。見てみたいかなあ。
6. そうそう、わたしもそう思う、わかるなあ。
7. これって、よくわからないけど、こういうことかな？
8. ああ、これ面白そう、もつと知りたいなあ。
9. 決めた、せつたいこれためてみる。
10. 思ひ出したことがあります。わたしも、こんなことあつた。
11. 「ここ」とつても「ここ」とんじやないかな、いいなあと思ひます。
12. わたしなら、「ここ」とつてもいいかな、つたわつてきたよ。
13. 「ここ」を読んで、君に会つてみたくなつたよ、会つて…のはなつたいね。
14. それって、どんなものかなあ、想像してイラストを描いてみたよ。
15. においが（音が、味が、てきわりあつ）つたわつてきたよ。
16. なんだか、かっこいいなあ。
17. ええつ、自分と比べるとこんなには違ふなんて。
18. 意外、違ふと思つていたのに同じだったよ。
19. うちやましい、そんなことがあるなんて。

作品を書いた人が、すぐとなりについて、その人にはなしかけています。そんな気持ちで心の動きを「てびき」にしてみましよう。



資料 14

② 「こんなオノマトペもありなんだ！」と、子どもの発想を豊かにする「てびき」

オノマトペ。草子を作ろう

名前 ()

オノマトペ草子「たたく」の段を考えよう。こんな感じで書いてみよう

「メー、トルほどの棒をもつて、思いっきり振りおろしてすいかをたたく。ぶじよつ、当たつた！鉛筆のお尻で、前の席の友だちの肩をたたく。『ちよんちよん』ねえ、昼休み野球しようよ、げんこつで力いっぱいビーチボールをたたく。『ぼわっ』げんこつがはじき返された。

どんな状況の「たたく」オノマトペを考えたくなつたかな。こんなものはどうだろう。

・このすいか、おいしいすいかかな。たたいて確かめよう。ぽこんぽこん おつ、これは甘そうだ。

・チャンス！ バドミントンラケットでシャトルを思いっきりたたく。がつつ ああ、フレームに当たつてしまった！

・緑日でとつた水風船のヨ！ヨ！。うれしくて何度もたたいてみる。ばちやばちやばちや、このリズムと手の感触がたまらないんだよね。

・どつちが水しぶきを上げられるか勝負だ。お風呂の水面をてのひらで思ひっきりたたく。ばつちーん て、手が痛い！

題材として

- ・野球でファールに。
- ・野球でホームランに。
- ・サッカーのシュートでうまくあたらなかつた。
- ・サッカーのシュートで会心の一撃。
- ・ガチガチのおとうさんの肩をたたく。
- ・先生が来たことを教えるために肩をたたく。
- ・試合で負けた。ともだちをなぐさめるために肩をたたく。
- ・つまみ食いしようとしたほく。お母さんが手をたたく。
- ・運動会で勝利。友だちとハイタッチ。

ここににあるものを参考にしてみてもいいし、連想して自分なりの場面を考えてみるでもいいですね。自分が強く感じたことだとより表現しやすいですね。



資料 28

<オノマトペ草子についてのてびき>